

Fusyo Collaboration letter

5月30日 No.12 文責 廣田 秀俊



問題解決に向け主体的に学び続ける児童の姿

学習問題を解決するため、何について、どうやって調べるのかを iPad で確認した子供達。仲間との交流を行うためには、「何のためにしているの?」「どういうよさがあるの?」という視点を忘れずに学び合うことを自分の学習方法の選択肢としてインプットしていきます。



『私たちが日々出す大量のごみは、どのように処理されているのだろうか? ~君たちはどうごみと向き合うか~』。この学習問題を読み上げた4年1組の子供達が、早速自主的に学習を始めていきました。

教室に用意されていた本を持ち出し、清掃工場でごみを溶かす写真を読み始める子がいます。

別の場所では、リサイクルの秘密をペアになって探っている姿が見られました。リサイクルは、また同じものに作りかえるという事柄を iPad に記述して学びを積み重ねています。

ごみがどのように処理されているかを調べているグループでは、燃やせるごみと燃やせないごみの区別について確かめた後、資料を持ち寄りながらゴミピットやボイラーなど、清掃工場内の仕組みについて交流を重ね、学びを深めていました。

教科書の資料を基に考えていた子は、缶・ビン・ペットボトル、またプラスチックごみの選別、リサイクルの流れについて、考え作りシートに書き込んでいきました。



4年生の子供達は、この授業の中で教科書を参考としたり、資料を基に考えたり、また百科事典等の本を自分の調べ学習の題材として活用したりして、学びを進めていました。一人で二人で、グループでと、学び合う方法や交流する相手を自分の状況に合わせて調整しながら、本時の課題に迫っていきました。

この時間の4年生の社会科の学習で、子供達は三つの課題を追究していきました。

- ① 大分市のごみを集める時や運ぶ時には、どのような秘密があるのだろうか?
- ② 大分市のごみ処理では、働く人々はどのような工夫や努力をしているのだろうか?
- ③ 大分市のごみのリサイクルには、どんな秘密があるのだろうか?



各課題を解決するため、“働く人が何のために工夫や努力をしているのか”“ごみを処理するために自然に被害を加えない工夫をどのように行っているのか”等、話し合いや研究調査から答えを導き出そうとする姿が見られました。担任の先生からアドバイスも届いてきました。「工夫はみつけれられたか」「どんなよさがあったのか」「誰に伝えようとしているのか」このアドバイスを参考に、交流する相手を変えたり、他のグループの発表を聞いたりする動きも見えてきました。

振り返りでは「誰とどんな課題を調べて何がわかったのか」「次回どうしてこうと思っているのか」「どんな学び方をしたのか」と、自分自身をしっかりと見つめ直していました。自分で学習を調整しながら、決まった時間の中で、調べる方法や関わる人を一人一人が選択・決定して、進めていく学習が行われていました。

